

医王寺所藏板碑群



〔登錄年月日〕平成一四年二月一三日  
 〔種別〕有形文化財（古文書）  
 〔名称〕医王寺所藏板碑群  
 〔点数〕九基  
 〔所有者等〕医王寺  
 〔所在地等〕上高井戸一―二七―一五

## 医王寺所蔵板碑群

この板碑群は文和五年（一三五六）から享徳二年（一四五三）の間に造立されたものである。大きさは全般に小振りのもが多く、およそ、高さは六〇cm内外、幅は二〇cm内外、厚さは二cm内外である。様式はいずれも武蔵型板碑である。

九基中最大である高さ七〇cmの三尊種子板碑は下半部を欠損しているが、当初は一mを越えたと思われる。月輪で囲まれた三尊種子のうち阿弥陀の月輪は光明真言で、脇侍の観音の下には随求真言の一部が残されている。随求真言を刻した板碑は、区内では本板碑と阿佐谷南三丁目共同墓地所在の二例のみである。また、光明真言と随求真言を併記する本板碑と同様式の板碑が世田谷区成城の本橋家に所蔵されており、これらの間に一連の製作者の存在を推測させる。

正長元年（一四二八）銘の二基は、作りも大変似通っており同一石工の製作にかかるものと思量される。

文和五年銘のものは、上部が欠損しているが三尊種子の板碑であったと思われる。中央に紀年銘、右側に逆修を意味する「逆順」、左側に「禪尼」と法号のみを記している。

応永二〇年（一四一三）銘の板碑は、銘文は三行であるが配字に特徴を見せる。紀年銘のうち年号を中央に、月日を右行にと二行にわたっている。こうした年月日の記し方は特異である。

本板碑群は一四・一五世紀に作成された板碑の標準的な様

式で、伝来の経緯などに不明な点もあるが、上高井戸最南部及び隣接地における中世集落の形跡を伝える資料として重要である。

### 【文化財所在地】

